株式会社ヴェルスパ
取締役専務兼ゼネラルマネージャー
生口明宏

×

株式会社 Another works
代表取締役
大林尚朝

×

ヴェルスパ大分
MF10
福満隆貴

［パートナー対談］

「地域の価値となれ」

パートナーと共に地域の明るい未来を創出

第1回

株式会社Another works
代表取締役 大林尚朝さん

パートナー企業と
選手、フロントの共演。

第1回は
株式会社Another worksの代表取締役・大林尚朝さんと
福満隆貴選手、生口明宏GMの3人が対談した。
立場の異なる三者が
サッカー、地域創生、組織づくりなどについて語り合った。
対談中には互いのサッカー観、哲学をぶつけ合う
濃密な時間が流れた。

サッカーも経営も哲学があってこそ

生口　記念すべき第1回目のゲストは、パートナー企業の株式会社Another worksの代表取締役、大林尚朝さんです。2022年12月から経営強化を目指すヴェルスパ大分に対し、専門的なスキルを持つ外部人材を結びつけ、組織強化の取り組みを支援してもらっています。大林さんは、かなりのサッカー好きなんですよね？

大林　学生の頃は野球部でしたが、趣味は海外サッカーを見ること。バルサ（スペインのFCバルセロナ）はメッシが入る前から好きでした。この5、6年間、欠かさずバルサの試合を見ています。

福満　リーガの放送って、朝方ですよね。

大林　はい、朝5時から試合を見て、会社に行きます！

福満　熱いですね～（笑）
生口　バルサに惹かれたきっかけは？
大林　父親がバルサ好きで、朝起きたら試合が流れていました。当時はロナウジーニョがいて、アンリやエトー、デコなどスーパースターもいてスペクタルな試合をしていました。段々と興味を持ち、バルサを調べていくとヨハン・クライフにたどり着きました。クライフの凄さは、サッカーを劇的に進化させた哲学を打ち出したこと。現代サッカーを語る上で不可欠な「トータルフットボール」を提唱し、クライフイズムとしてバルサのスタイルに浸透させましたよね。哲学でサッカーをすることに驚きました。それは経営にも通じることで、自分の軸を持つことの重要性に気付かされ、感銘しました。
生口　ヴェルスパもフィロソフィー（哲学）を大事にしています。ミッションに「地域の価値となれ」があり、ビジョンとして繋がる街づくりを目指しています。サポーター、選手、パートナー、自治体、全てが繋がってヴェルスパがいる地域にしかできないことを創造しています。Jリーグに加盟するためには、チーム名にはホームタウンをつけないといけません。大分にはトリニータとヴェルスパがあります。同じ地域名があるのは東京と横浜、大阪の首都圏だけ。地方では大分だけなのでWネームになります。そこに価値があると思っています。地域のWネームでいえば、イタリアのミランとインテルが有名。両チームが同じスタジアムを使っていて、ミラノダービーとなれば熱狂的な盛り上がりを見せます。大分でも同じようにダービーの魅力を高め、インバウンド集客まで視野に入れて創り出したい。そういった夢を持っています。
福満　実現するためには、まずは僕たちがJ3に昇格して、さらにカテゴリーを上げなければいけない。毎週、大分で試合を見ることができるようになれば、サッカーを通じた街づくりができると思います。

ブレないことが大事

生口　インバウンド集客然り、海外にも視野を広げなければいけないと思っているのですが、御社は国内だけでなく、海外進出も考えていると聞いています。今後の展開は？

大林　我々の会社は2019年に創立し、データベースで豊富な即戦力複業人材の登録者７万人がいます。その人材を欲しい企業1500社、120自治体以上に使ってもらっています。何かに挑戦するときに必要なのは人です。1000人雇えば必ずしも売り上げが上がるわけではない。信念とスキルを持った即戦力が１、２人いるだけで会社が変わることがあります。そういった人材を正社員で雇用するのはお金も労力も必要でハードルが高くなる。であれば複業という形をとって、仲間を増やすことはできます。そういう発想から我々のビジネスが始まりました。

海外展望で言うと日本人の労働者が減り続けています。1.２億の人口が2040～50年代には１億人を切ると言われています。その時に超後期高齢化がくる。人口の３分の１が65歳以上を占める時代が差し迫っているために、働き手のど真ん中にいる年代をシェアをしようという流れになります。他国を見るとインドやインドネシア、パキスタンなどで人口が伸びており、海外を含めた人材の取り合いが起きるのは目に見えています。僕らは2030年を目処に、世界中の人材が移住せずに仕事ができるようにオンラインを使い、日本で仕事ができる形を整えています。その頃には同時翻訳ができるシステムができ、言葉の壁は確実になくなると予測しています。

サッカーでもアジア戦略では、欧州、アメリカの客を引き込むためにスーパースターをチームに入れる方法がありますよね。サウジアラビアのリーグは、お金を使って欧州の優秀

な選手を引き抜きました。国を揚げて本気を出すと、あそこまで盛り上がるのかと思いました。

福満　サウジアラビアのリーグのレベルはそんなに低くないと聞きます。これからもっと選手が流れると思います。サッカーでは世界中の選手が移籍するのが当たり前。僕が以前所属したC大阪ではタイのチームと業務提携しました。タイの選手が移籍したり、リーグ開幕前や中断期間にタイでキャンプをしたりしました。ただ、クラブ間だけでなく、大林さんが言ったようにJリーグや国を挙げてビジネスとして盛り上げた方がサッカー熱は高まると感じました。

生口　ただ、我々としては組織作りやスタッフの育成などお金でないところで勝負し、価値を見出したいとの思いがあります。Another worksさんが魅力的な会社にするために取り組んでいることはありますか。

大林　会社の目指すところはブレないようにしています。ミッションの部分ですね。何を成し遂げたいのか、どんな文化を作り上げたいのか。理想を現実化するためには仲間が欠かせませんが、どのような仲間が必要なのか言語化し行動指針に落とし込むことが大切です。ミッションを実現するために、忠実に行動できる人間を組織に入れないといけない、それは徹底しています。

福満　サッカーでも経営哲学は通じるものがあると感じました。サッカーは監督が発信することが全て、クラブの社長や強化部の連携があってのことですが、監督が目指すサッカーがブレると選手もブレる。結果が出なくなると戦い方を180度変える監督がいますが、そうなると違和感が出てくる。どれが正解がわからなくなります。立ち帰るべきスタイルがないと選手も迷います。上のカテゴリーを目指すならなおさらです。結果を出ないと契約を切られるシビアな世界なので、自分のスタイルを貫く難しさはありますが、何が最終目標で、どのような道筋を辿ることがベストなのかを示すのが監督だと思います。ヴェルスパは３年後にJ３で優勝することを掲げました。目標が決まれば、選手はそれを信じてやり続けるしかない。無理だと思うならチームを去るべきだと思っています。

大林　その考えは同感です。目標を信じられない人は、会社を去った方がいいと思っています。無理だと思っている人が目標を実現できるわけがありません。大義を抱き、王道から踏み外さず、ど真ん中をいく。サッカーも同じだと思っていて、勝てば良い訳ではない。ヴェルスパというチームがどんなサッカーを大事にするか。バルサならティキタカ（小気味よいパス回し）を体現するためにハードワークもする。そういったサッカー哲学があるからファンがついてくるし、負けても応援し続けるのだと思います。ヴェルスパには美学を貫いてほしいです。

当たり前のことを
当たり前にすることが一番難しい

福満　目指すスタイルを体現するために練習をしています。練習でできないことは試合にでもできない。何事も積み重ねが重要です。

生口　ヴェルスパでは29名の選手を8名のスタッフが見ています。Another worksさんは60名の社員をどう見て、評価しているのですか？

大林　それぞれの部署に役員をつけています。そして、役員の下に必ずマネージャーをつけているのでマネジメント体制は整っていると思います。これから100人、200人と増える予定ですので、どういう人を評価するのかを言語化することが大切です。雰囲気で絶対に評価してはいけない。残業しているから評価するは二流、三流がすること。ずっと居残り練習して、試合で何もできなかったら評価できないのと同じです。また、大儀と王道に反する手段を使って数字を残す人は評価しません。結果を出しても、会社の哲学を守れない人を全く評価しない点は徹底しています。当たり前のことを当たり前にする、これが大切です。

福満　当たり前のことを当たり前にする。これが一番難しんですよね。サッカーで止める蹴るは当たり前ですが、わかっていてもできない。だからトレーニングをする。当たり前のことができる集団が強い。できない選手に対して、僕は厳しく要求します。時には衝突することもありますが、その温度差を埋めるコツはありますか？

大林　それぞれの立場、年齢もあるので難しいですが、普段からの積極的にコミュニケーションを取るように意識しています。普段の業務におけるディスカッションはもちろん、雑談も大切にしています。

生口　大林さんはピリピリすることはないんですか？

大林　ありますよ。ただ、物事が上手くいかないときこそ、自責に捉えるように意識しています。ベクトルを自分に向け、主語を自分から組織にする。組織から社会にすると日本の課題がわかるようになります。

生口　今回はお話しでき、大変勉強になりました。最後にヴェルスパに期待することがあれば教えてください。

大林　僕は大分で生まれ育ち、大学から東京に行った人間ですが、人生の軸は大分貢献です。いろいろな世界を見てきましたが、よくしたいと思ったのは大分です。その一つが信念を持って頑張っているヴェルスパでした。これからも一緒に大分に貢献できる活動をしたいです。情報格差はないけど物理的な距離がある。現地に行って応援できないけど、離れていても応援している人がいるとチームや選手に思ってもらいたい。今後も試合結果だけでなく、大分の魅力、ヴェルスパの魅力を発信してほしいです。